

## 年頭所感



一般社団法人日本マグネシウム協会  
会長 山崎 一正

新年、あけましておめでとうございます。

平成30年の新春を迎え、謹んでお慶びを申し上げます。

昨年を顧みますと、ドナルド・トランプ氏の第45代アメリカ合衆国大統領就任に始まり、世界情勢がどのように変化していくかが注目され、米朝関係の緊張の高まり、頻発するテロなど、世界経済の動きを把握することが難しい状況が続いた一年となりました。国内におきましては、10月の衆議院解散による総選挙において自民党が大勝し、安倍政権が継続されることとなりました。米朝をはじめとする外交関係や、国内における諸問題の解決など多くの課題が残されている状況ではございますが、「生産性革命」と「人づくり革命」を軸として新しい経済政策パッケージが掲げられており、この政策が国内経済の成長に繋がることが期待されます。

安倍政権の継続と共に、産業界の話題としては国内のものづくりの基本を再確認する様な課題も提起され、次世代に上手に技術の継承をしつつ、日本が世界に誇るものづくり技術の信頼性を改めて高めていく必要があると感じた年でもありました。

近づく東京オリンピックへ向け明るい話題もございました。男子サッカーの日本代表が今年開催されるロシアワールドカップへの出場権を獲得、2月に開催される平昌冬季オリンピックへ向け、好調な成績を収めたスケート陣らの活躍、若い力が躍動する卓球など、スポーツ界では若い力が大きな感動、希望を与えて続けて続けております。まずは平昌オリンピックにおける日本選手団の大活躍に期待しております。

さて、我が国のマグネシウム産業ですが、国内総需要はここ数年約4万トンではほぼ横ばいの推移が続いておりますが、業界の動向や輸入量を見ますと、2017年の国内需要量は、アルミ合金の添加剤、鉄鋼脱硫剤、ノジュラー鋳鉄やチタンの還元剤などに利用される純マグネシウムの需要量が増加傾向を示し、ダイカスト、鋳物、射出成形、圧延、押出などの製造方法により自動車部品、携帯電子機器部品などへ利用されておりますマグネシウム合金の需要量は微増するものと見られ、全体としては前年から少々増加するものと予測しております。国内需要は順調な回復に向かい伸長が続いております。

また、IoTの活用、AI技術の発達、自動車分野におけるEV・PHV化への革新など、IT化や電子化が加速する社会の状況下において、輸送機器などの更なる軽量化を求める分野や、電池や医療機器などマグネシウムの反応性に着目した新たな分野からのニーズは高く、当協会の「自動車マグネシウム適用拡大委員会」、「自動車Mg展伸材適用検討委員会」や、未来開拓研究プロジェクト「革新的新構造材料等研究開発」などにより活発なマグネシウムの材料開発が続けられております。それらの開発が進むことで、着実に国内需要は成長するものと期待しております。

世界の動きを見ますと、欧州などにおける自動車分野での環境規制の高まりから、自動車部品へのマグネシウム適用が大幅に拡大すると見込まれており、国際マグネシウム協会(IMA)が主催する国際会議では、今後10年でマグネシウムの世界需要量が現在の約85トンから約1

60万トンと、ほぼ倍増するものと予測されております。特に中国においては、間もなく大型のマグネシウム電解製錬工場が本格稼働することになっており、世界最大のマグネシウム生産国という地位がより確固たるものになります。更に需要においても、大型バスの骨格部品や鉄道車両、電動二輪車の部品といった構造部材への適用へ向けた材料開発が進められるなど、幅広い分野においてマグネシウムを活用していこうとする動きがあります。環境規制や電動化による自動車部品軽量化の流れに乗り、中国や欧米が先導役とはなりますが、マグネシウムの世界需要は着実に成長していくことが期待されております。

このような国内外の動きに対し、当会におきましても、国内のマグネシウム業界の動きを活発にするための積極的な取り組みを続けていきます。マグネシウム合金の適用拡大へ向けては、前述しました「自動車マグネシウム適用拡大委員会」、「自動車 Mg 展伸材適用検討委員会」と「マグネシウム合金高速鉄道車両実用化技術委員会」の活動により、主要分野での需要拡大へ向けた材料開発などを進めながら、今一度、接合、切削、表面処理といった加工技術における基礎を見直し、データ整備、マニュアル整備、安全対策の強化を図り、世界に勝てるマグネシウムによるものづくりの技術基盤を構築していきたいと考えております。

また、標準化の整備も引き続き進めて参ります。昨年は、経済産業省の委託事業「高機能 JIS 等整備事業」により新規に策定しました JIS、「マグネシウム合金の燃焼性評価方法」が日本規格協会より発刊されました。本年も、板材、型材関連や分析関連の改正 JIS が順次発刊されると共に、分析関連の新規 ISO の策定も進めるなど、マグネシウム関連の JIS 及び ISO の国内審議団体として、国際競争も見据えた積極的な取り組みを続けて参ります。

これらの活動を通じて、会員同士の情報共有、交流の強化を図り、また微力ではありますが全国の各地域で実施されているマグネシウムに関する研究会などへのご支援ご協力を継続して行っていきながら、国内におけるマグネシウムの普及促進に貢献していきたいと考えております。更に、国際マグネシウム協会（IMA）のアジア代表としてマグネシウムの各種活動について積極的に交流を図り、国内マグネシウム産業の活性化、グローバル化に繋がりたいと思っております。

平成も30年を迎えました。先々の予測が難しい世界情勢ではございますが、政府が実施する新しい経済政策パッケージを基に、国内経済の成長に向けた各種の政策が実施されて参ります。近づく東京オリンピックへ向け、様々な業界が盛り上がりを見せていくことと思われませんが、国内のマグネシウム産業も、着実に成長発展させていきたいと考えております。マグネシウムは、輸送分野、携帯電子機器分野の軽量化に貢献する構造材料であり、またアルミ合金添加、鉄鋼脱硫などの添加剤及び還元剤、人命を救う生体材料、世界を明るく照らす電池材料でもあり、社会の様々な場面に貢献できる金属材料でございます。本年も当会会員一丸となり、この素晴らしい材料の需要開拓、安定供給などに努めて参ります。

最後になりますが、本年も我が国マグネシウム産業の成長と一般社団法人日本マグネシウム協会の充実に対し何卒倍旧のご支援をお願いいたしますと共に、会員並びに関係各位のご健勝とご発展を心から祈念申し上げ、年頭のご挨拶とさせていただきます。

以上